

# 第1学年国語科書写（硬筆）学習指導案

日時 平成23年11月11日（金）2校時  
児童 1年1組 男17名女18名計35名  
指導者 尾藤久美子

## 1 単元名 かん字をかこう（光村図書P20～P25）

### 2 単元について

#### (1) 児童の実態

児童はこれまでに、正しい姿勢、硬筆用具の正しい持ち方を理解して書くこと、平仮名の外形、筆順、点画の送筆や終筆の書き方を理解して書くことを学んできた。2学期からは、漢字の点画や漢字と片仮名の外形・筆順を理解して書くことを学習している。

7月に行った書写アンケートの結果を見ると、書写の時間が好きであり、書写の時間は、字がうまく書けることができることや他の勉強に役に立つと思っている児童が多い。また、ふだんから正しい姿勢と鉛筆の持ち方に気をつけて文字を書いていると挙げている。そのことから書くことに対する意識は高く、基準理解に努めながら、意欲的に取り組んでいる児童がほとんどである。しかし、実態をみると、正しい姿勢や筆記具の持ち方が持続できない児童や点画の送筆・終筆等に注意が足りない児童もみられる。

#### (2) 教材について

学習指導要領国語科第1学年及び第2学年の書写に関する事項は、「(ア) 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと (イ) 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと」である。1年生では、文字には正しい外形があること、正しい筆順があり気をつけて書かなければならないこと、送筆には「折れ・曲がり・そり」、終筆には「止め・はね・払い」があること、文字を正しく書くためには、正しい姿勢や鉛筆の持ち方があることを、平仮名の学習を通して学ぶ。

本単元では、漢字の画の送筆や終筆を調べ、「折れ・曲がり・そり」「止め・はね・払い」があることを知り、気をつけて書くことを指導する単元である。多くの漢字や片仮名が新出してくるこの時期に、正しい点画の書き方を理解できる活動を組み、しっかり定着できるようにすることは、書写学習における基礎的・基本的事項の定着を図る上でも重要である。

#### (3) 指導にあたって

本単元では、漢字の書き方を学習する最初の単元である。まず、漢字には画や点があり、外形や筆順があることを理解する。次に、平仮名・片仮名同様、漢字の点画の送筆や終筆を学習し、理解と定着を図る。そして、字形を整えて書くために画の長さや方向も学ぶという構成になっている。そこで、学習を進めるうえで、次のことに留意しながら、指導にあたっていく。

- ・ 正しい鉛筆の持ち方、正しい姿勢を確認してから学習に入る。
- ・ 用語については、声を出すことや体感することを通して意識づけしていく。
- ・ 漢字の点画（始筆、送筆、終筆）や外形、筆順の基準が明確なワークシートを工夫する。

## 3 単元の目標

【硬筆】 漢字の画の送筆や終筆を理解して書ることができる。

## 4 単元の評価規準

【関心・意欲・態度】 漢字の画の送筆や終筆に注意して書こうとしている。

【知識・理解】 漢字の画の送筆や終筆の違いを理解している。

【技能】 漢字の画の送筆や終筆に気をつけながら、正しく書いている。

## 5 単元の指導計画（8時間）

- (1) 漢字の点画、外形、筆順の決まりを理解して書くことができる。・・・2時間
- (2) 漢字の画の送筆に気をつけて書くことができる。・・・2時間（本時1／2）
- (3) 漢字の画の終筆に気をつけて書くことができる。・・・1時間
- (4) 漢字の横画・縦画の長短に気をつけて書くことができる。・・・1時間
- (5) 漢字の画の送筆や終筆の方向に気をつけて書くことができる。・・・1時間
- (6) 漢字の成り立ちを知り、漢字を丁寧に書くことができる。・・・1時間

## 6 本時の指導（3／8）

### (1) 目標

漢字の送筆を調べ「折れ・曲がり・そり」があることを知り、注意して書くことができる。

### (2) 評価規準

【関心・意欲・態度】 画の送筆の違いに関心を示して書こうとしている。

【知識・理解】 画の送筆「折れ・曲がり・そり」を理解している。

【技能】 画の送筆部分で「折れ・曲がり・そり」を正しく書いている。

### (3) 研究に関わって

本時は、「気づく」の場の工夫に重点をおいた指導を行う。

- ・ 書写の入門期であることから、文字の提示や操作活動の仕方を工夫し、基準を視覚的に捉えることができるようにする。

- ・大切な用語がより身につくように声を出したり、動作化や、身近な材料で画の形を表現させたりなど、五感を通して基準に気づかせる。

(4) 展開

段階	学習活動	教師の支援	準備・評価 (◎)
15	試書・課題把握・基準理解 1 「日・七・子」の試し書きをする。 2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">             かくの とちゅうに 気をつけて、かこう。           </div> 3 学習の基準を理解する。 ①画の途中調べ 用語「曲がり」と異なる「そり」の存在を知る。 ②体を使った文字遊び 「折れ・曲がり・そり」の動作化 手・指・体・物 ③送筆の書き方 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <b>【基準】</b>              「折れ」一度止めてから方向を変える。              「曲がり」スピードを緩めながら止まらないで方向を変える。              「そり」ほぼ一定の速さで次第に方向を変える。           </div>	・正しい姿勢を確認する。 ・空書により、筆順を確かめてから、試書する。 ・前時の、漢字には点画があり、外形や筆順のきまりがあることを想起させる。さらに、画の途中には違いがあることに気づかせ、本時のめあてにつなげる。  ・画の途中（2画目）に着目させ、「日」「七」「子」の文字を見比べる。（児童側の気づき） ・「折れ・曲がり・そり」の用語を明らかにする。 ・「曲がり」と異なる「そり」を明確にするため、小道具や動作化を取り入れなど体感を通して、理解を深める。  ・「折れ」はいったん止まること、「曲がり」は折らない（止まらない）で曲がること、「そり」は曲げすぎないですることを、意識づける。 ・DVDを見て、途中の部分の「折れ・曲がり・そり」に着目させる。	・硬筆ワークシート ・硬筆ペン  ・拡大手本 ・文字の途中分部の掲示 ・ストロー ・あさがおの支柱  ◎画の途中「折れ・曲がり・そり」を理解することができたか。  ・DVD
	できる 練習・批正 20 4 基準にそって練習する。 5 批正をし、練習をする。	・段階を踏んで練習させる。 ・「折れ」と「曲がり」、「曲がり」と「そり」の違いに留意させる。 ・自己批正の観点を示す。	・硬筆ワークシート ・硬筆ペン ・拡大投影機 ・具体的な分解文字の提示
まとめる・生かす 10 清書・評価・一般化 6 清書をする。 7 自己評価をする。 ・日・七・子の3文字の中で1文字でもよさを見つけることができる。 8 相互評価をする。 9 学習のまとめをする。 ・「折れ・曲がり・そり」のある漢字を探す。 ・学習の振り返りをする。 10 次時の学習について知る。	・基準を確かめ丁寧に清書させる。 ・清書と試書を比べ、進歩を自己評価する。  ・試書と比べて上達したところを相手に伝え、一人一人が喜びを感じられるようにする。 ・「折れ・曲がり・そり」のある文字を提示し、文字意識を高める。	・硬筆ワークシート ・拡大投影機 ・赤ペン  ・「田」「見」「手」のカード	